

北陸農政局長賞受賞

～「一集落一農場」方式によるむらづくり～

のうじくみあいほうじんあどそせいさんくみあい

受賞者

農事組合法人阿難祖生産組合

（福井県大野市^{おおのし}）

■ 地域の概要

農事組合法人阿難祖生産組合が所在する阿難祖領家地区は、周辺を奥越の山々に囲まれた大野盆地の中心にある大野市の南西部に位置する中山間地域である。

阿難祖領家地区は、昭和61年から将来を見越して90aの大区画ほ場整備が行われ、これに先立ち「一集落一農場」としての生産組合を昭和59年に設立し、協業体制による水田農業が開始された。



位置図

■ 主なむらづくりの内容

その後、平成22年に任意組織による集落営農の形態から、集落全員が組合員である「法人」へ移行し、同時に4つの部会を設け、水稻、大麦、そばを組み合わせた営農の効率化と「阿難祖米」としてのブランド販売により所得の向上等にも取り組んでいる。また、生産組合が中心となって、「集落全体が一つの家族」の理念のもとに、地区内の小学校と連携した「田植え体験」、子供会や婦人会と連携した「プランター作りと設置・管理」、道路沿い等への「花苗の植栽」などによる景観形成、近隣集落と連携した「鳥獣防止柵の設置」と獣肉を活用した集落住民による「バーベキュー」、「そば祭」などを企画・実施するなどむらづくりにも広範に取り組んでいる。

このように、集落を丸ごと取り込んだ「一集落一農場」による地域づくりは、農業に軸足を置いた「むらづくり」のモデルであるといえる。



写真1 「阿難祖米」
（特別栽培米）パッケージ



写真2 組合員協業の稲の種まき



写真3 そば祭のイベント（踊り）